

企業ニュース ミルボン

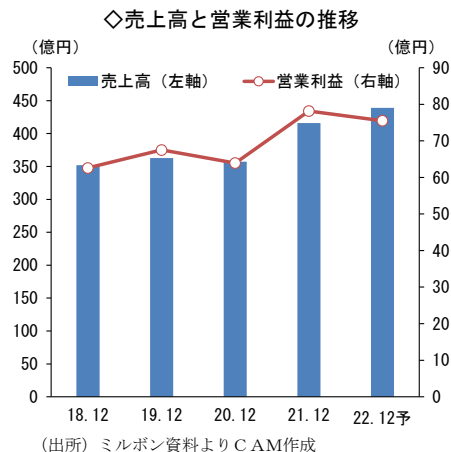
(東証プライム : 4919) <http://www.milbon.co.jp/>

作成者:高見澤晶子

業務用ヘア化粧品の国内首位

美容室向けのヘア化粧品で国内首位。コロナ禍を契機に、美容室を通じた一般消費者への店販ビジネスや、会員制ECサービス「milbon:iD」の拡大に一層注力。また、アジアを中心とした海外展開にも積極的に取り組む。21.12期の国別売上高構成比は、日本81%、米国2%、中国5%、韓国8%、その他4%。

2022~2026年度の中期経営計画では、最終年度に売上高580億円、営業利益108億円を目指す。海外事業は取り扱い店舗の開拓のほか、グローバルでの研究開発や生産・物流体制構築を進めて、売上高比率を約25%とする方針。また、デジタル化を進める中で、milbon:iDの会員数100万人超を目標としている。



国内外ともに売上高が好調に推移

21.12期の連結業績は、売上高が416億円、前期比16%増、営業利益78億円、同22%増。売上高は国内が同13%増、海外が36%増。国内は主力のヘアケア製品やヘアカラー剤の販売が好調、海外は中国・韓国で当社製品の取り扱い店舗を積極的に開拓したことが寄与した。milbon:iDの登録会員数は約17万人、会社想定を大きく上回り売上増に寄与した。利益面では人件費や物流費が増加したものの、増収効果で吸収した。

22.12期の通期会社計画は、売上高が439億円、前期比6%増、営業利益が76億円、同3%減。今期より会計処理の方法を変更、21.12期を同一の方法で調整した実質増減率は前期比7%増収、同7%営業増益。売上高前提は国内が同7%増、海外が同11%増。国内外での取り扱い店舗拡大や、一般消費者への店販の伸長が寄与するとみられる。会社によると、1月の売上高は想定を上回る良好なスタートだった模様。利益面では、今期も人件費や物流費の増加が続くほか、積極的な設備投資による減価償却費増、コロナ禍からの回復に伴う広告費増などが見込まれるが、売上高のモメンタムが強く、これらの費用負担の吸収は可能であろう。

[株価動向・投資判断]

海外やデジタルへの投資が、中長期での売上成長につながると期待される。

<4919 ミルボン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.12	35,725 (▲1)	6,394 (▲5)	5,791 (▲7)	4,204 (▲7)	129.2	56.00
21.12	41,582 (16)	7,817 (22)	7,158 (24)	5,109 (22)	157.2	68.00
22.12 予	43,900 (6)	7,550 (▲3)	7,410 (4)	5,230 (2)	160.9	80.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価(2022/4/1)	5,480 円
年初来高値(高値日)	6,140 円(22/2/18)
同 安値(安値日)	4,830 円(22/3/15)
予想P E R(22.12予)	34.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,236.4 円
P B R	4.43 倍
予想配当利回り	1.46 %
(1株当たり配当金年80.00円)	
R O E(21.12)	13.4 %
発行済み株式数	3,312 万株